

Yoshiki Takimoto
42479-8200
JWP/949.253.4920

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年12月 4日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-352568

[ST.10/C]:

[JP2002-352568]

出 願 人

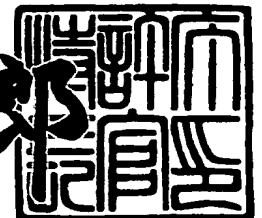
Applicant(s):

孔雀金網株式会社

2003年 6月13日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3046545

【書類名】 特許願

【整理番号】 11X25A

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府東大阪市小阪 1 丁目 2 番 3 号 孔雀金網株式会社
内

【氏名】 滝本 良樹

【特許出願人】

【識別番号】 593046164

【氏名又は名称】 孔雀金網株式会社

【代理人】

【識別番号】 100074273

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤本 英夫

【電話番号】 06-6352-5169

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 017798

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9402385

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 網籠

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 側壁部および天井部を有する網籠本体と、この網籠本体を支持する架台部とを備えた網籠であって、前記側壁部が、折曲部分または湾曲部分が設けられた複数の網状体と、左右両端部がそれぞれ前記網状体の左右端部に接続される板状体とを有し、接続された板状体の左右端部と網状体の左右端部とがほぼ面一となるように構成したことを特徴とする網籠。

【請求項 2】 前記板状体が光透過性を有する材料からなる請求項 1 に記載の網籠。

【請求項 3】 前記網状体を 2 つ有し、各網状体が平面視ほぼコの字形状となるように形成されている請求項 1 または 2 に記載の網籠。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば、小鳥やリス、ハムスター、二十日鼠などの小動物の飼育に用いられる網籠に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来の網籠として、平面視ほぼ矩形状の天井部およびこの天井部に接続される側壁部を有する網籠本体と、この網籠本体を支持する架台部とを備え、前記側壁部が、4 枚のほぼ矩形状の網状体からなり、各網状体のそれぞれの左右両端部どうしを互いに接続してなるものがある。

【0003】

しかし、上記網籠では、各網状体の端部どうしの接続を、互いに 90 度の角度をなすように行う必要があり、2 つの網状体を手で持って前記角度が変わらないように規制しつつ架台部に取り付けるという作業を行うのは難しく、組み立てに手間と時間がかかるという問題があった。

【0004】

また、他の網籠として、本出願人の出願に係る特願 2 0 0 1 - 3 2 1 8 3 6 の明細書および図面に示すように、側壁部および天井部を有する網籠本体と、この網籠本体を支持する架台部とを備え、前記側壁部が、ほぼ矩形状の中央部分およびこの中央部分の左右にほぼ 9 0 度折れ曲がるように連設された 2 つの矩形部分を有する平面視がほぼコの字形状である 2 つの網状体からなり、2 つの網状体のそれぞれの左右両端部を 1 8 0 度の角度をなすように互いに接続するようにしたものもある。

【 0 0 0 5 】

上記の構成からなる網籠では、接続される 2 つの網状体の左右端部どうしがほぼ面一となるため、2 つの網状体を手で持って前記角度が変わらないように規制しつつ架台部に取り付けるという作業は比較的簡単に行え、組み立てを早く行えるという利点を有している。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、上記の構成からなる網籠では、前記網状体の 2 つの矩形部分の幅が大きかったことから、運搬時や収納時など、分解したときに、前記 2 つの網状体が嵩張り、コンパクトにまとめられないという問題があった。

【 0 0 0 7 】

本発明は、上記の事柄に留意してなされたものであって、その目的は、組み立てを簡単に行え、かつ分解したときにはコンパクトにまとめることができる網籠を提供することである。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、本発明の網籠は、側壁部および天井部を有する網籠本体と、この網籠本体を支持する架台部とを備えた網籠であって、前記側壁部が、折曲部分または湾曲部分が設けられた複数の網状体と、左右両端部がそれぞれ前記網状体の左右端部に接続される板状体とを有し、接続された板状体の左右端部と網状体の左右端部とがほぼ面一となるように構成した（請求項 1）。

【 0 0 0 9 】

さらに、前記網状体を2つ有し、各網状体が平面視ほぼコの字形状となるように形成されているとしてもよい（請求項3）。

【0010】

上記の構成からなる網籠では、側壁部において所定の角度に屈曲（または湾曲）させる必要がある箇所を含む部分を前記網状体にのみ設け、接続した状態の網状体の左右端部および板状体の左右端部どうしがほぼ面一となるように構成してあることから、網状体および板状体を手で持って前記角度が変わらないように規制しつつ架台部に取り付けるという作業を比較的簡単に行え、従って、網籠の組み立てを早くかつ簡単に行えるのである。

【0011】

また、前記網状体どうしを直接接続するのではなく、板状体を介して接続するようにしてあり、平面視ほぼコの字形状の網状体の後述する短矩形部分の幅を小さくすることができるため、網状体が嵩張ることなく、運搬時や収納時など、分解したときにはコンパクトにまとめることができる。

【0012】

また、前記板状体が光透過性を有する材料からなるとしてもよい（請求項2）。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

図1は、本発明の一実施例に係る網籠Dの構成を概略的に示す分解斜視図、図2および図3は、前記網籠Dの要部の構成を概略的に示す分解斜視図および縦断面図である。

網籠Dは、側壁部1および天井部2を有する網籠本体3と、この網籠本体3を支持する架台部4と、この架台部4内に配置される底網部5とを備えている。

【0014】

前記側壁部1は、折曲部分または湾曲部分が設けられた複数（本実施例では2つ）の網状体6、6と、左右両端部がそれぞれ前記網状体6、6の左右端部に接続される2枚の板状体7、7とを有し、接続された板状体7の左右端部と網状体

6の左右端部とがほぼ面一となるように構成してある。

【0015】

前記網状体6は、ほぼ矩形の中央部分6aと、この中央部分6aの左右にほぼ90度折れ曲がるように連設された短矩形部分6b、6bとを有する平面視ほぼコの字形状の部材である。

【0016】

前記中央部分6aの上部は、前記短矩形部分6b、6bの上端部よりも上方に突出した状態となっており、上部の左右端部はそれぞれ、湾曲状に切り欠かれている。

【0017】

また、前記中央部分6aおよび短矩形部分6b、6bの上端部にはそれぞれ、外側に向かって突出する爪状の係止手段8が設けられている。

【0018】

さらに、前記2つの網状体6、6の一方の網状体6の中央部分6aには、上下方向にスライドさせることにより開閉する扉部分6cが複数（本実施例では3つ）設けられている。なお、前記扉部分6cを、一方の網状体6の中央部分6aのみではなく、短矩形部分6bに設けてもよいし、他方の網状体6に設けてもよい。また、前記扉部分6cは、上下方向にスライドさせることにより開閉するものに限られない。

【0019】

図4（A）および（B）は、前記板状体7の構成を概略的に示す斜視図および横断面図である。

前記板状体7は、例えば、アクリルニトリルスチレン（AS）やポリスチレン（PS）などのプラスチック樹脂であって光透過性を有する材料からなり、本実施例では、ほぼ透明または半透明となるように形成されている。なお、前記板状体7を、例えば、ほぼ半透明となるように形成してもよい。そして、板状体7は、ほぼ矩形の平板状に形成されており、その周縁部には、網状体6の左右端部に接続されるジョイント部分9が設けられている。

【0020】

前記ジョイント部分 9 は、板状体 7 の周縁部（本実施例では板状体 7 の左右両縁部）に設けられ、板状体 7 の側方に突出する突出部材 9 a，9 b からなる。詳しくは、一方の突出部材 9 a は、板状体 7 の一面側（表面側）に設けられており、他方の突出部材 9 b は、板状体 7 の他面側（裏面側）に設けられており、本実施例では、板状体 7 の左右両縁部のそれぞれ上部、中央部および下部に、一対ずつ設けられている。また、前記突出部材 9 a，9 b の先端部にはそれぞれ、前記網状体 6 の左右端部を係止する係止部 1 0 としての突起部分が設けられている。

【 0 0 2 1 】

前記天井部 2 は、平面視ほぼ矩形状または正方形状をした網状の部材からなり、その一端部および他端部が下方に湾曲し、前記側壁部 1 の上端部に沿わせて接続できるように形成されている。また、天井部 2 は、その上面中央に把手部分 2 a を有している。

【 0 0 2 2 】

そして、前記側壁部 1 および天井部 2 からなる網籠本体 3 は、下部が開放された（底壁を有さない）箱状を呈するのである。

【 0 0 2 3 】

前記架台部 4 は、平面視がほぼ矩形状または正方形状をしており、その側壁には、上側から順に、内側に向かって狭まる 2 つの段差部 1 1，1 2 が設けられている。

【 0 0 2 4 】

上側の段差部 1 1 には、前記網籠本体 3（側壁部 1）の下端部が載置されるのであり、載置された網籠本体 3（側壁部 1）が段差部 1 1 から抜けることを防止するための複数の抜け止め片 1 3，1 3 … が架台部 4 の側壁の上部の適宜の箇所に形成されている。

【 0 0 2 5 】

また、架台部 4 の側壁の一面には開口 1 4 が形成されているとともに、この開口 1 4 から架台部 4 の内外に出し入れできるトレー 1 5 が設けられている。

【 0 0 2 6 】

前記底網部 5 は、ほぼ矩形状または正方形状をした網状の部材であり、その周

縁が前記段差部 1 2 の上面に当接した状態で、架台部 4 の内部に収容される。

【 0 0 2 7 】

次に、上記の構成からなる網籠 D の組み立て方法について説明する。

前記網籠 D を組み立てるには、以下の (1) ～ (4) の操作を行えばよい。

まず、(1) 前記底網部 5 を前記架台部 4 の段差部 1 2 上に配置するとともに、(2) 前記網状体 6, 6 と板状体 7, 7 とを接続して側壁部 1 を形成する。なお、網状体 6 と板状体 7 との接続は、板状体 7 の左右端部に形成されたジョイント部 9 に網状体 6 の左右端部を差し込むことによって行うことができ、これにより、網状体 6 の左右端部と板状体 7 とは互いに 1 8 0 度の角度をなす状態で接続されることとなる。

【 0 0 2 8 】

続いて、(3) 上記のように形成した側壁部 1 の下端部を架台部 4 の段差部 1 1 の上面に載置し、前記抜け止め片 1 3, 1 3 … を側壁部 1 の下端部に係止させ、最後に、(4) 前記側壁部 1 の上端部に前記天井部 2 を接続することにより、網籠 D の組み立てが完了する。なお、側壁部 1 と天井部 2 との接続は、側壁部 1 の上端部に形成された係止手段 8, 8 … を天井部 2 の周縁部に係止させることによって行うことができる。

【 0 0 2 9 】

ここで、前記網籠 D の組み立ては、(1) ～ (4) の順序で操作を行う必要はなく、適宜に順序を変えて行うことができる。

【 0 0 3 0 】

上記の構成からなる網籠 D では、側壁部 1 において所定の角度に屈曲（または湾曲）させる必要がある箇所を含む部分を前記網状体 6, 6 にのみ設け、接続した状態の網状体 6 の左右端部および板状体 7 の左右端部どうしがほぼ面一となるように構成してあることから、網状体 6, 6 および板状体 7, 7 を手で持って前記角度が変わらないように規制しつつ架台部 4 に取り付けるという作業を比較的簡単に行え、従って、網籠 D の組み立てを早くかつ簡単に行えるのである。

【 0 0 3 1 】

また、前記網籠 D では、網状体 6, 6 どうしを直接接続するのではなく、板状

体 7, 7 を介して接続するようにしてあり、平面視ほぼコの字形状の各網状体 6 の前記短矩形部分 6 b, 6 b の幅を小さくすることができるため、網状体 6, 6 が嵩張ることなく、運搬時や収納時など、分解したときにはコンパクトにまとめることができる。

【0 0 3 2】

さらに、前記網籠 D では、前記板状体 7, 7 をほぼ透明となるように形成してあることから、網籠 D の内側を見る際に、前記板状体 7, 7 を通して見るにより、網状体 6, 6 の網の目を通して見るよりも、はっきりと内部の様子を見ることができ、網籠 D 内において飼育している飼育対象（動物など）の様子をより正確に知ることができるのである。

【0 0 3 3】

なお、上記実施例の網籠 D では、前記網状体 6 は、縦に長い網目を有しているが、このような構成に限るものではなく、横に長い網目を有していてもよく、縦横の幅がほぼ等しい網目を有していてもよい。

【0 0 3 4】

また、上記実施例の網籠 D では、前記網籠本体 3 が、底の無いほぼ直方体形状または立法体形状の箱体を呈するように構成してあるが、このような構成に限るものではなく、例えば、底の無い多角柱形状の箱体を呈するように形成してもよく、さらに、前記網籠本体 3 における板状体 7 よりも上側に相当する部分を、ドーム状や四角錐状などに形成してもよいのである。

【0 0 3 5】

図 5 (A), (B) および (C) は、前記板状体 7 の変形例の構成を概略的に示す斜視図、縦断面図および説明図である。

上記実施例の網籠 D では、前記網状体 6 に開閉自在な扉部分 6 c を設けてあることから、この扉部分 6 c の内側に相当する位置に、図示しない餌用の容器や水用の容器を配置し、前記扉部分 6 c を開けて餌や水を前記容器内に補給することで、網籠 D 内の飼育対象を飼育できる。しかし、例えば、網籠 D 内に鳥を飼っている場合、この鳥が羽ばたいたりすると、前記容器内の餌や水が前記羽ばたきによって生じた風により、網状体 6 の網目を通り抜け、網籠 D の周辺にまで飛散し

てしまうおそれがある。

【 0 0 3 6 】

そこで、上記のような飛散を防止するために、図 5 (A) ~ (C) に示すように、前記板状体 7 に開閉自在な扉部分 7 a を設け、この扉部分 7 a の内側に相当する位置に餌用や水用の容器 1 6 を配置してもよい。

【 0 0 3 7 】

前記扉部分 7 a は、前記板状体 7 に設けられたガイド 7 b, 7 b に沿って上下方向にスライドする。また、板状体 7 におけるガイド 7 b, 7 b の間には開口 7 c が形成されており、この開口 7 c の下側には、前記扉部分 7 a の落下を防止するための係止部 7 d が設けられている。

【 0 0 3 8 】

また、扉部分 7 a は、透明な板状部分 7 e と、この板状部分 7 e の周縁を保持する枠部分 7 f とを有し、枠部分 7 f の上部には把手部分 7 g が設けられている。なお、扉部分 7 a は、このような構成を有するものに限られない。

【 0 0 3 9 】

上述のように、板状体 7 に扉部分 7 a を設け、この扉部分 7 a の内側に相当する位置に餌用や水用の容器 1 6 を配置した場合には、例えば、網籠 D 内に鳥を飼っていて、この鳥が羽ばたいたりしても、前記容器内の餌や水が前記羽ばたきによって生じた風により、網状体 6 の網目を通り抜け、網籠 D の周辺にまで飛散してしまうということを防止でき、餌や水は網籠 D 内で飛散するに止めることが可能となる。

【 0 0 4 0 】

なお、図 1 ~ 図 5 に示す実施例では、前記板状体 7 の左右両縁部のみにジョイント部分 9 を設けているが、このような構成に限るものではなく、例えば、図 6 に示すように、板状体 7 の上縁部にも前記ジョイント部分 9 を設け、この板状体 7 の上縁部に設けたジョイント部分 9 により、板状体 7 と天井部 2 とを接続するようにしてもよい。

【 0 0 4 1 】

また、複数ある前記突出部材 9 a, 9 b の全てをほぼ均一の長さとし、適

宜に長さを変えてもよい。例えば、図 6 に示すように、板状体 7 の左右縁部にそれぞれ 4 つの突出部材 9 a, 9 a … を設け、上下にある 2 つの突出部材 9 a, 9 a の長さよりも、中央にある 2 つの突出部材 9 a, 9 a の長さを長くしてもよい。

【 0 0 4 2 】

【発明の効果】

以上説明したように、上記の構成からなる本発明によれば、組み立てを簡単に行え、かつ分解したときにはコンパクトにまとめることができる網籠を提供することが可能となる。

【 0 0 4 3 】

すなわち、上記網籠 D では、前記側壁部 1 において所定の角度に屈曲（または湾曲）させる必要がある箇所を含む部分を前記網状体 6, 6 にのみ設け、接続した状態の網状体 6 の左右端部および板状体 7 の左右端部どうしがほぼ面一となるように構成してあることから、網状体 6, 6 および板状体 7, 7 を手で持って前記角度が変わらないように規制しつつ架台部 4 に取り付けるという作業を比較的簡単に行え、従って、網籠 D の組み立てを早くかつ簡単に行えるのである。

【 0 0 4 4 】

また、前記網籠 D では、網状体 6, 6 どうしを直接接続するのではなく、板状体 7, 7 を介して接続するようにしてあり、平面視ほぼコの字形状の各網状体 6 の前記短矩形部分 6 b, 6 b の幅を小さくすることができるため、網状体 6, 6 が嵩張ることなく、運搬時や収納時など、分解したときにはコンパクトにまとめることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施例に係る網籠の構成を概略的に示す分解斜視図である。

【図 2】

上記実施例の要部の構成を概略的に示す分解斜視図である。

【図 3】

上記実施例の要部の構成を概略的に示す縦断面図である。

【図 4】

(A) および (B) は、上記実施例における板状体の構成を概略的に示す斜視図および横断面図である。

【図 5】

(A) , (B) および (C) は、前記板状体の変形例の構成を概略的に示す斜視図、縦断面図および説明図である。

【図 6】

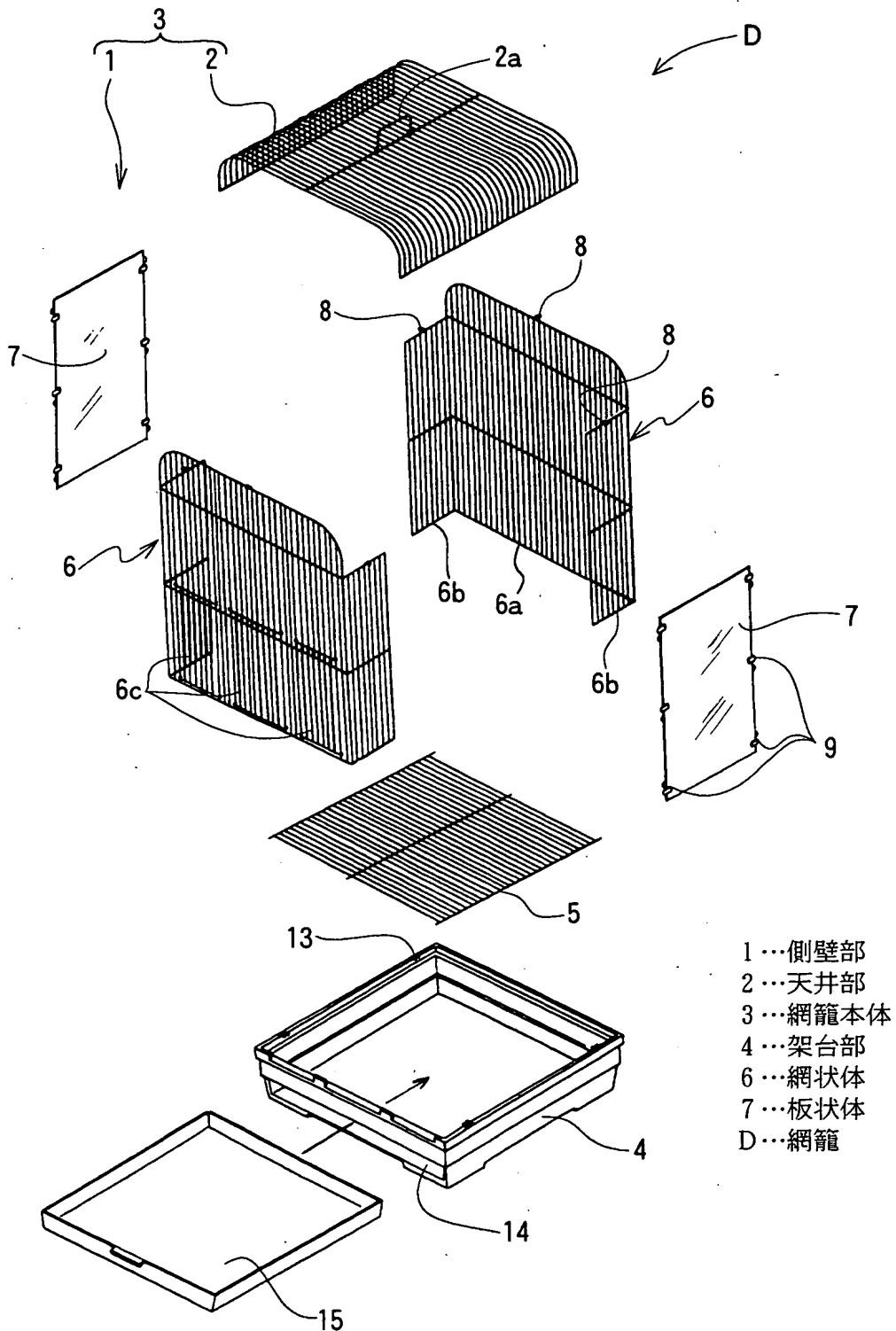
前記板状体の更なる変形例の構成を概略的に示す斜視図である。

【符号の説明】

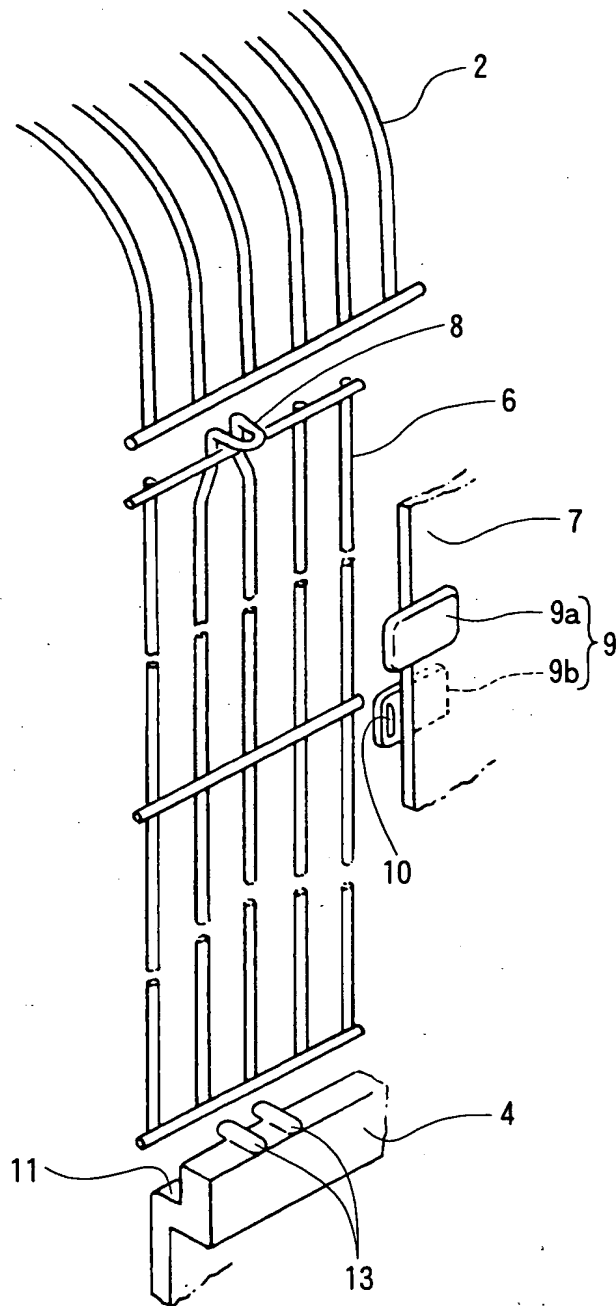
1 …側壁部、 2 …天井部、 3 …網籠本体、 4 …架台部、 6 …網状体、 7 …板状体、 D …網籠。

【書類名】 図面

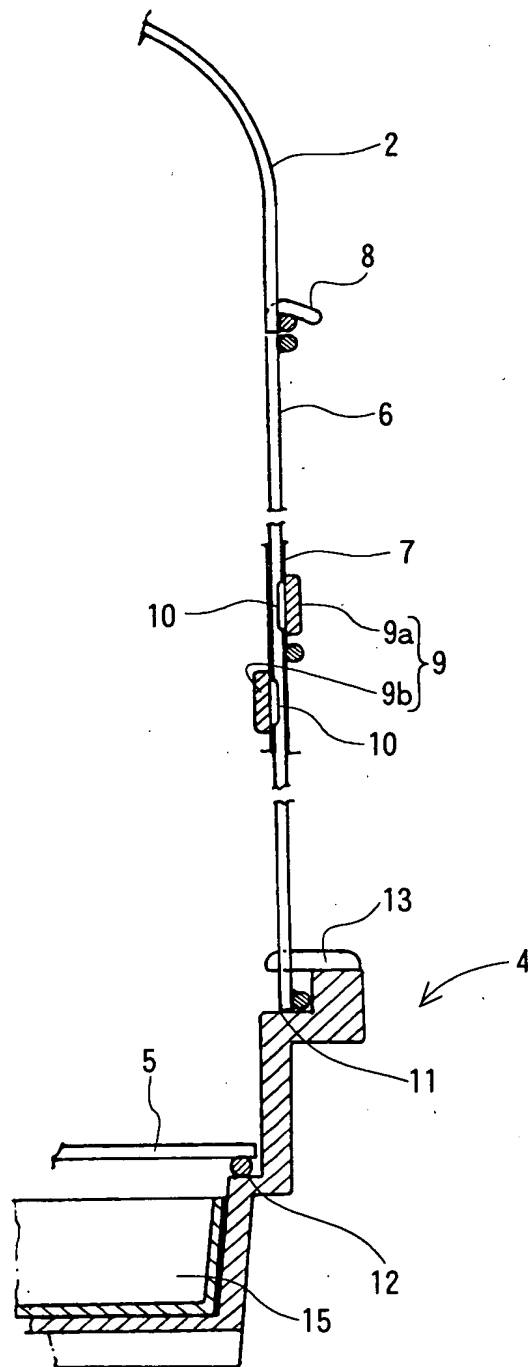
【図 1】



【図 2】

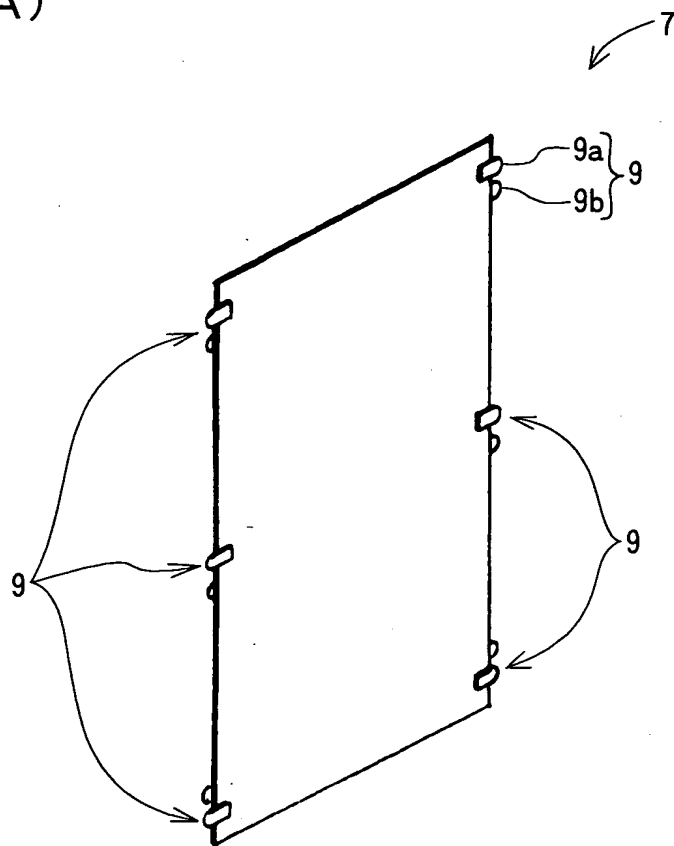


【図 3】

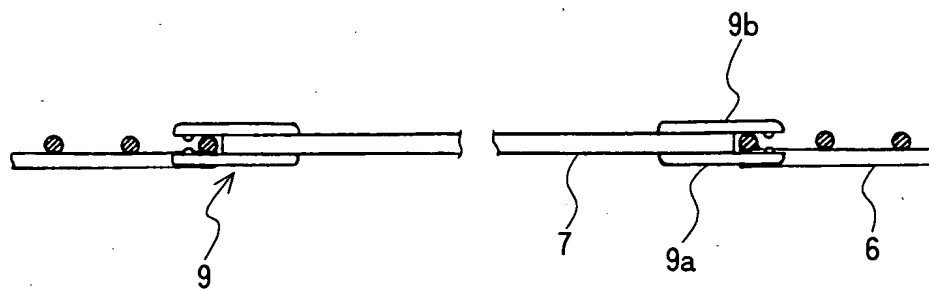


【 図 4 】

(A)

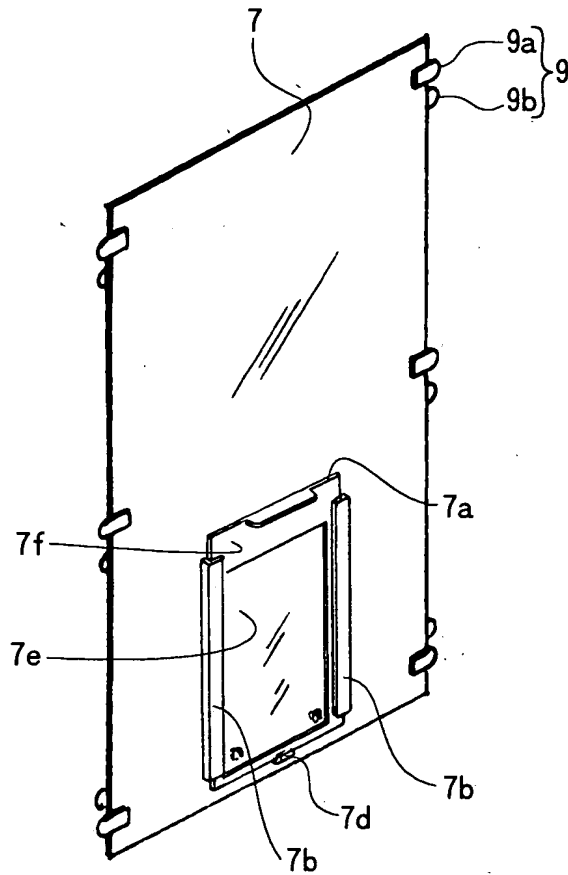


(B)

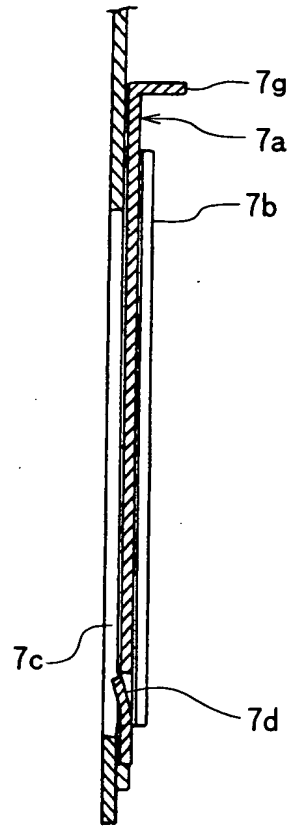


【図 5】

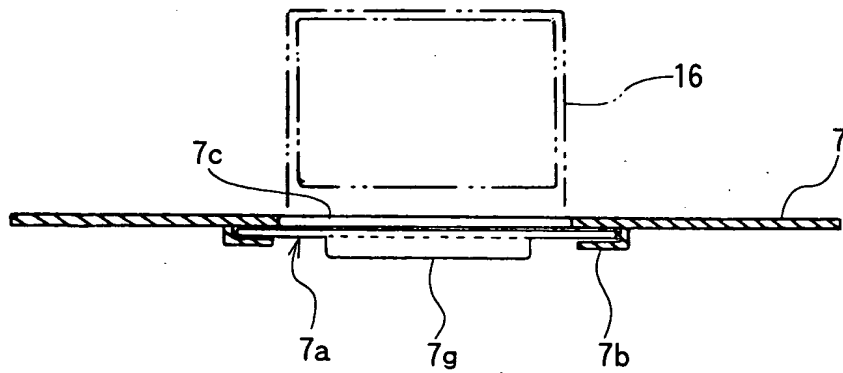
(A)



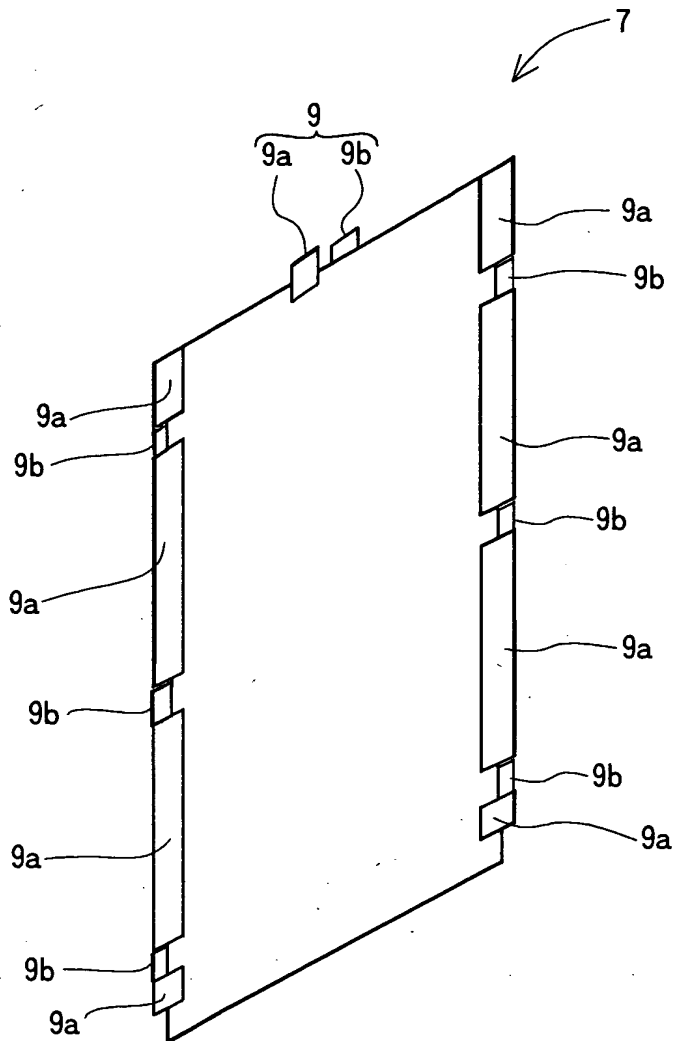
(B)



(C)



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 組み立てを簡単に行え、かつ分解したときにはコンパクトにまとめることができる網籠を提供する。

【解決手段】 側壁部 1 および天井部 2 を有する網籠本体 3 と、この網籠本体 3 を支持する架台部 4 とを備えた網籠 D であって、前記側壁部 1 が、折曲部分または湾曲部分が設けられた複数の網状体 6, 6 と、左右両端部がそれぞれ前記網状体 6, 6 の左右端部に接続される板状体 7, 7 とを有し、接続された板状体 7, 7 の左右端部と網状体 6, 6 の左右端部とがほぼ面一となるように構成した。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-352568
受付番号	50201836571
書類名	特許願
担当官	第一担当上席 0090
作成日	平成14年12月 5日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成14年12月 4日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [5 9 3 0 4 6 1 6 4]

1. 変更年月日	1 9 9 3 年 2 月 1 2 日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府東大阪市小阪 1 丁目 2 番 3 号
氏 名	孔雀金網株式会社